

竹原管内景況調査

12月の景況DIは、製造業は悪化、非製造業は横ばい

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和4年12月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

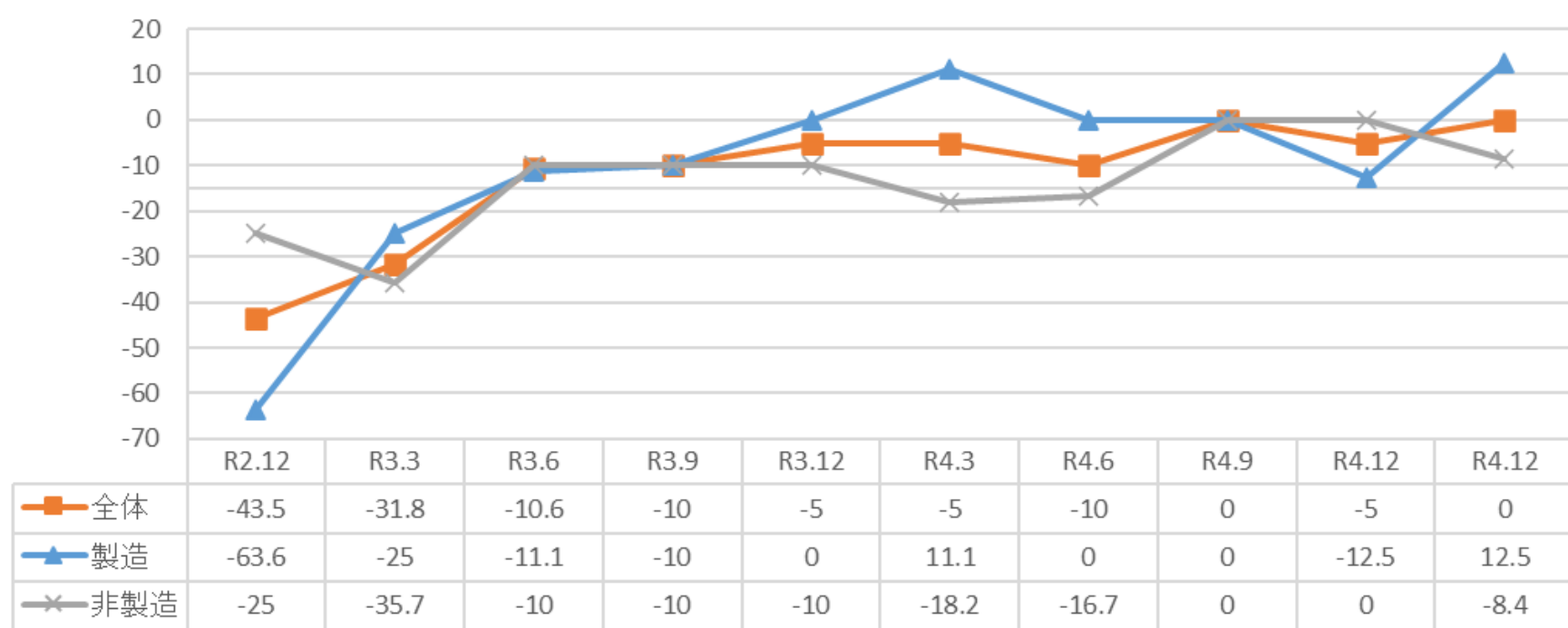
調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和4年12月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	15	8
建設	5	3
小売	12	5
サービス	17	4
合計	49	20

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



12月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は12.5ポイント悪化し、非製造業は横ばいでした。
12月と比べて1月～3月までの見通しは、全体では、5ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

《製造業》

- ・輸出が増加したため(日本酒)
- ・長期の大型受注をいただくが、全体的には上がってこない。(鉄工)
- ・半導体の不足と中国のゼロコロナの影響による。(精密機械)
- ・ロシア・ウクライナ情勢などの先行き不安もあり、厳しい状況が続いた。
原材料価格の更なる高騰や、資源高による各種エネルギーコストの上昇した影響などから、各種商品の値上げが進んだこともあり、消費者の節約志向が一段と強まった。
当社においても、当年2月と11月の2度の価格改定を実施するとともに需要喚起策を進めたが、前年までの新型コロナ影響に伴う内食需要の反動減を受けた。(食品)

《非製造業》

◇建設業

- ・災害工事が完成を迎える事により精算される。(建設)

◇小売業

- ・競合の閉店(スーパー)

◇サービス業

- ・コロナ情勢の影響による。(飲食店)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)